

フーゴー・ヴォルフ作曲
《〈ハンス・ハイリンク〉からのワルツ＝フィナーレ》の
成立状況と編曲手法

梅 林 郁 子*

(2016 年 10 月 25 日 受理)

The establishment and arrangement technique of Hugo Wolf's
Walzer-Finale aus »Hans Heiling« von Heinrich Marschner

UMEBAYASHI Ikuko

要約

本稿では、フーゴー・ヴォルフが 1880 年に作曲したピアノ曲《ハインリヒ・マルシュナーの〈ハンス・ハイリンク〉からのワルツ＝フィナーレ》について、その成立状況と編曲手法を論じる。彼の他の現存するピアノ作品は全てヴォルフ全集に収められ、公の形で出版されているが、この作品は全集出版時に行方不明であったため収録されず、2011 年によりやくマルグレート・ジェストレムスキーにより、自筆譜の所在が明らかにされた。《ワルツ＝フィナーレ》は、マルシュナーのオペラ《ハンス・ハイリンク》第 1 幕最終曲の編曲だが、オペラのヴォーカル・スコアを、記憶を頼りに書き出したものであるため、ヴォーカル・スコアと大変良く似た作品となっている。このオペラをヴォルフが好んだ理由として、先行研究では、作曲地マイアーリンクとオペラで描かれる情景の類似が挙げられているが、特にこの場面を選択した理由として、ヴォルフが好んだ題材である、男性の「恋愛に対する不器用さ」が前面に出ていたからとも考えられる。

キーワード:

フーゴー・ヴォルフ、ハインリヒ・マルシュナー、《ハンス・ハイリンク》

* 鹿児島大学教育学部 准教授

1. はじめに

フーゴー・ヴォルフ Hugo Wolf (1860–1903) は、1875 年から 1882 年までの、彼の創作期では初期にあたる時期にのみ、ピアノ曲を作曲した。そのなかで完成作品は、【表 1】のように全部で 9 つあり、それは大きくヴォルフ独自の作品と、他の作曲者のオペラに基づく編曲作品に分けられる。このうち編曲は《ハインリヒ・マルシュナーの〈ハンス・ハイリンク〉からのワルツ＝フィナーレ》(以下《ワルツ＝フィナーレ》と略記)、《リヒャルト・ヴァーグナーの〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉によるパラフレーズ》、《リヒャルト・ヴァーグナーの〈ヴァルキューレ〉によるパラフレーズ》の、いずれも 1880 年、または同年頃に作曲された三作品である。

【表 1】ヴォルフのピアノ曲 (完成作品)

曲名	作曲年
ピアノのための変奏曲 <i>Variationen für Klavier op.2</i>	1875
ピアノのためのロンド・カプリチオーソ <i>Rondo capriccioso für Klavier op.15</i>	1876
ピアノのためのフモレスケ <i>Humoreske für Klavier</i>	1877
幼年時代から (子守唄、戯れと遊び) <i>Aus der Kinderzeit (Schlummerlied, Scherz und Spiel)</i>	1878
ハインリヒ・マルシュナーの〈ハンス・ハイリンク〉からのワルツ＝フィナーレ <i>Walzer-Finale aus »Hans Heiling« von Heinrich Marschner</i>	1880
リヒャルト・ヴァーグナーの〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉によるパラフレーズ <i>Paraphrase über »Die Meistersinger von Nürnberg« von Richard Wagner</i>	ca.1880
リヒャルト・ヴァーグナーの〈ヴァルキューレ〉によるパラフレーズ <i>Paraphrase über »Walküre« von Richard Wagner</i>	ca.1880
ミッツィー・ヴェルナー嬢のためのアルバムブラット ¹ <i>Albumblatt für Fräulein Mitzi Werner</i>	1880
カノン <i>Canon</i>	1882

ヴォルフのピアノ曲は、完成作品がヴォルフ全集の第 XVIII 巻 1 号となる Internationale Hugo Wolf-Gesellschaft in Wien 1974 に、未完作品が同 2 号となる ibid. 1997 に、その他、一部の未完作品のファクシミリが第 XIX 巻 1 号 ibid. 1992 に収められている。しかし、このなかに《ワルツ＝フィナーレ》は含まれていない。この楽譜はかつて、ヴォルフが生前、心置きなく作曲できるよう、長年にわたってペルヒトルツドルフの別荘を提供し続けたヴェルナー Werner 家に所蔵

1 《ミッツィー・ヴェルナー嬢のためのアルバムブラット》は、実際には 1878 年に作曲された《幼年時代から》の〈子守唄〉の編曲であるため、先行研究によっては〈子守唄〉の第二版と扱う場合もある (例えば Jestremski 2011:75)

されており、ヴェルナー家の一員であったハインリヒ・ヴェルナー Heinrich Werner(1873–1927) が Werner 1913 で、この楽譜のタイトル・ページと第 1 ページを公開した (Werner 1913: 66–67 の間の挟み込み) のだが、ヴォルフ全集出版時には「見つけだすことのできない作品 *das zweite unauffindbare Werk*²」(Internationale Hugo Wolf-Gesellschaft in Wien 1997:V) と考えられていたため、いずれの巻にも含まれなかった。その後マルグレート・ジェストレムスキー Margret Jestremski がヴォルフの作品目録を出版した際に、この楽譜はオーストリア国立図書館に所蔵されていることが明らかにされた (Jestremski 2011:637–638)。そして現在もベルヒトルツドルフの自治体による貸出契約の下、同図書館内のみでの閲覧が可能である。

こうして《ワルツ＝フィナーレ》はヴォルフ全集に含まれず、彼の作品のなかで、唯一出版されていないピアノ曲となってしまったことから、ヴォルフのピアノ曲に言及した研究 — Eppsterin 1984、Rozman 2007 にも取り上げられてこず、また拙著梅林 2011 にも、この情報を含めることができなかった。筆者は鹿児島大学若手教員海外研修支援事業により、ヴォルフのピアノ自筆譜研究のため、2015 年 4 月から 2016 年 3 月にかけてウィーンに滞在したが、その間に同図書館を訪れ、この曲の自筆譜を閲覧することができた。そこで本稿では、《ワルツ＝フィナーレ》について、その成立状況と編曲手法を考察し、ヴォルフが初期に作曲したピアノ曲の先行研究に新たな視点を加えたい。

2. ハインリヒ・マルシュナーとオペラ《ハンス・ハイリンク》

ハインリヒ・アウグスト・マルシュナー Heinrich August Marschner(1795–1861) は、ドイツザクセン州ツィッタウ出身の作曲者で、1824 年にドレスデン歌劇場の音楽監督に就任した。前任者はカール・マリア・フォン・ヴェーバー Carl Maria von Weber(1786–1826) で、マルシュナーはヴェーバー同様に、ドイツ語によるオペラを作曲・上演していった。やがて 1827 年にライプツィヒ歌劇場で指揮者となった後も同様の活動を続け、この地では《吸血鬼 *Der Vampyr*》(1828 年初演) や《聖堂騎士とユダヤの女 *Der Templer und die Jüdin*》(1829 年初演) などの代表作を生み出し、作曲者として非常に高い評価を得ることとなった。1831 年に、マルシュナーはハノーファー宮廷歌劇場楽長に就任する。就任後の 1833 年にはオペラ《ハンス・ハイリンク》がベルリンの宮廷歌劇場で初演の運びとなり、このオペラは、彼の代表作となったのである。その後 1859 年まで同楽長として仕事を続けるが、やがてドイツではリヒャルト・ヴァーグナー Richard Wagner(1813–1883) の作品が圧倒的な人気を誇るようになる一方で、マルシュナーの作品は一時ほど、人々の支持を得られなくなっていった。しかし、マルシュナーは、今日では「ドイツ・ロ

2 原文は、「第二の見つけだすことのできない作品」となっている。第一の作品は、同じく 1880 年頃に、アルベルト・ロルツィング Albert Lortzing(1801–1851) のオペラに基づいて作曲された《アルベルト・ロルツィングの〈皇帝と大工〉によるファンタジー *Fantasie über Albert Lortzings »Zar und Zimmermann«*》で、これはフランク・ウォーカー Frank Walker によると 1943 年にグラーツのラジオ放送で演奏された (Walker 1992:485) と記録されているが、残念ながら現在では、楽譜は行方不明で録音も残されていない (Jestremski 2011:639)。

マン主義オペラの最も重要な代表者 the most important exponent of German Romantic Opera」(Palmer 2016) と評価されており、「マルシュナーの《ハンス・ハイリンク》(1833 初演) は、ヴェーバーの《魔弾の射手》(1821 初演) とヴァーグナーの 1840 年代のオペラ、すなわち、《さまよえるオランダ人》、《タンホイザー》、そして《ローエングリン》の橋渡し Marschner's Hans Heiling (1833) forms a bridge between Weber's *Der Freischütz* (1821) and Wagner's operas 1840s: *Der Fliegende Holländer*, *Tannhäuser*, and *Lohengrin*」(McGlathery)³ と考えられている。

さて、《ハンス・ハイリンク》は作曲者により「序幕と3幕からなるロマン的オペラ Romantische Oper in einem Vorspiel und drei Akten」とされ、台本はエドゥアルト・デフリーント Eduard Devrient (1801-1877) に拠る。若き歌手であったデフリーントは、1827 年に、各地に伝わる様々なハイリンク伝説を自由な形で台本としてまとめあげ、友人のフェリックス・メンデルスゾーン＝バルトルディ Felix Mendelssohn Bartholdy (1809-1847) に作曲を持ちかけたが断られる。その後、デフリーントは匿名でマルシュナーに台本を送ったところ、マルシュナーは大変気に入り、作曲の運びとなった (Schraffl 2015: 33)。尚、マルシュナーの作品に限らず、この時代までのドイツ・オペラはいわゆるジグシュピールであり、《ハンス・ハイリンク》も同様に、歌だけでなく台詞も多く盛り込まれるなかで、劇が進行していく。

序幕は地底の国で始まる。この国の若き王ハンス・ハイリンクは、人間の女性アンナに熱烈な恋をし、結婚したいと願っている。女王であるハンスの母は、このまま地底で暮らすように説得するが、ハンスは国を捨て、地上へと向かう。第1幕は地上の場面で、ハンスは、自分が地底の国の小人たちの王であったことを隠し、金持ちで教養ある男性としてアンナの前に現れて、彼女と婚約する。しかし、この婚約はアンナの母ゲルトルーデの意志によるもので、当のアンナは乗り気ではない。ちょうど村は聖フロリアンの祭日で、アンナとハンスは祭りに出掛けるが、祭りではダンスを楽しみたいと願うアンナに対し、ハンスはそのような不品行は許さないと強い口調で命じたため、彼女を怒らせる。結局、アンナはハンスを置いて射手であるコンラートたちとダンスをしに行き、アンナの気持ちを理解できないハンスは、彼女がもう自分のことを愛していないと思ってしまう。

第2幕で、アンナが森のなかで一人考えに沈んでいると、ハンスの母である地底の女王が現れる。女王はハンスの正体を話し、アンナに彼を愛から解き放ち、地底に返すよう頼んで去る。アンナは女王との会話にショックを受けて倒れてしまうが、そこにコンラートが通りかかり、彼女を家に連れ帰る。家でアンナは母親にもうハンスとは結婚しないと言う。一方、以前よりアンナを愛していたコンラートは、彼女に愛を告白する。そこにハンスが現れ、アンナに結婚を迫るが、アンナは皆の前でハンスの正体を暴き、絶望したハンスはコンラートを剣で刺し、逃げ去っていく。第3幕は、再び地底の国で始まる。地底に戻ったハンスはコンラートがまだ生きており、ア

3 この引用文は、Weisstein 1992 について、ジェームズ・マックグラセリー James McGlathery がまとめ、RILM のデータベースに抄録として挙げたなかにあり、Weisstein 1992 中には書かれていない。

ンナと結婚することを知る。二人の結婚式に乗り込んだハンスは復讐をしようと騒ぎを巻き起こすが、そこに女王が現れてハンスを諫め、恋に破れたハンスは再び地底の国に帰っていく。

3. 《ワルツ＝フィナーレ》の成立状況

ヴォルフは多くの作品に、作曲した年月日や場合によっては時刻まで記入しているが、この作品に関しては、楽譜に作曲年月日の記述はない。しかし、この作品の大まかな作曲時期を、ジェストレムスキーは1880年の夏と特定しており（Jestremski 2011:637）、それは、ヴェルナーの記述に負っている。ヴォルフは夏にマイアーリンクで休暇を過ごした際、特に雨の日には何時間にもわたって、自分のお気に入りのオペラを演奏した。そのなかに《ハンス・ハイリンク》も含まれていたのである（Werner 1913: 17）。ヴォルフが特にこのオペラを好んだ理由として、ヴェルナーは「お気に入りのオペラの1つは（中略）マイアーリンクのイメージにぴったりとあてはまっていた（中略）《ハンス・ハイリンク》だった。狩人や農夫がおり、田舎の市や結婚式の行われる森林地方を、彼はここに再び見出したのだ Eine Lieblingsoper（中略）war Marschners »Hans Heiling«, der（中略）in das Maierlinger Bild hineinpaßte. Die waldige Gegend mit ihren Jägern und Bauern, mit ländlichen Kirmessen und Hochzeiten fand er hier wieder,」（ibid.）と述べている。

この記述を受けてジェストレムスキーは、「このオペラの第1幕からの《ワルツ＝フィナーレ》の書き付けは、そこでの音楽的な時間内での演奏のためか、あるいはまた（例えば客として受け入れてくれた家族のための）献呈楽譜として生み出されたのかもしれない。Die Niederschrift des Walzerfinale aus dem I. Akt dieser Oper dürfte dort für eine Aufführung im Rahmen der Musizierstunden oder auch als Widmungsblatt (z.B. für die Gastgeberfamilie) erfolgt sein.」（Jestremski 2011: 637）と、この曲がマイアーリンクにヴォルフを住まわせた家主一家⁴への献呈作品として書き残された可能性も示唆している。しかし実際、ヴォルフの自筆譜には献呈を示すような文言は記されておらず、表紙に「《ハンス・ハイリンク》からのワルツ＝フィナーレ（集結された記憶から）Walzer-Finale aus „Hans Heiling“（aus dem Gedächtnisse zusammengezogen）」と書かれているのみである。

4. 《ワルツ＝フィナーレ》とヴォーカル・スコア

さて、ヴォルフがこの曲を何に基づいて作曲したかについて、ジェストレムスキーは、ヴォルフがオーケストラ・スコアやオペラ鑑賞の記憶からではなく、「これに関してヴォルフは一明らかにピアノ編曲楽譜に基づいて — この作品の短縮、かつ簡易なピアノ曲の楽譜を創り出した。Dazu stellte Wolf – offenbar auf Basis des Klavierauszuges – eine gekürzte, erleichterte Klavierfassung dieses Stücks her,」（ibid.）。そこでこの曲について、オーストリア国立図書館に所蔵されているヴォーカル・スコアを調査すると、《ハンス・ハイリンク》は当時大変に人気のあつ

4 建築家で内務省の上級技師でもあったヴィクトル・プライス Vitor Preys (生年不明-1895) の一家を指す。

たオペラであったため、少なくとも今日までに【表2】に示す4種類が、ヴォーカル・スコアとして出版されていることがわかった。しかし、この4種類の楽譜は、【表2】の整理番号1以外出版年の記載がなく、また1も版数の記載が無い。しかしディーン・パルマー Dean Palmerによると、最初のヴォーカル・スコアは作曲者により、1833年にライプツィヒで出版されている(Palmer 2015)とのことなので、1は版を重ねた後の出版と考えられる。

【表2】 オーストリア国立図書館所蔵《ハンス・ハイリンク》のヴォーカル・スコア

整理番号	出版年	編曲者	出版地・出版社
1	1909	Heinrich Marschner	Leipzig: Friedrich Hofmeister
2	不明	Heinrich Marschner	Leipzig: Friedrich Hofmeister
3	不明	Gustav F. Kogel	Leipzig: Friedrich Hofmeister
4	不明	不明	Wien: Universal-Edition

この4種類の楽譜を、ヴォルフが編曲した部分のみ取り上げて比較してみたい。

ヴォルフの《ワルツ＝フィナーレ》は、《ハンス・ハイリンク》第1幕の最終曲となる7. 〈フィナーレ Finale〉に基づいている。〈フィナーレ〉自体は全355小節から成り立っているが、《ワルツ＝フィナーレ》では、この第1小節から第120小節までは、特に大きな編曲をせずにそのまま進行し、そこから第333小節の後奏に繋いで曲を短縮し、終了している。

まず、【表2】の整理番号1、2では「作曲者に拠る完全なピアノ編曲 Vollständiger Klavierauszug vom Componisten (2ではKomponistenと表記)」と書かれているので、マルシュナー自身がヴォーカル・スコアに編曲したということになる。各楽譜を比較すると、実際、1と2の楽譜は大変良く似ており、音は全く同じで、スラー、アクセント、強弱記号といった細かい部分が異なっている。次に、整理番号2と3の中表紙には「ペーターズ出版社に吸収された In die Edition Peters aufgenommen」と書かれており、この2つの楽譜は実質的にはペーターズ社から出版されているようである。しかしなぜか3のペーターズ版⁵は2とは編曲者が違い、指揮者や作曲者として活動したグスタフ・コーゲル Gustav Kogel (1849–1921) の名が挙がっている。パルマーによると、コーゲルの編曲は1892年にフル・スコアで行われているとのことだが、ピアノ・スコアの編曲情報については書かれていない (Palmer 2015)。いずれにしても、この二版は、異なる編曲者が記されているにも関わらず大変良く似ている。但し、1と2には音の違いはなかったが、1・2と3の間には、【表3】に示す二ヶ所の音の違いがある他、記号等の付され方も異なっている。

5 この版は、現在唯一市販されている《ハンス・ハイリンク》のヴォーカル・スコアである。

【表 3】整理番号 1・2 と整理番号 3 の音の相違箇所

相違の箇所	整理番号 1・2	整理番号 3
第 62 小節 2 拍目左手	fgh の和音	egc ¹ の和音
第 94 小節 3 拍目右手	c ³	四分休符

最後に整理番号 4 の楽譜については、責任者として作曲者ヴィルヘルム・キーンツル Wilhelm Kienzl(1857-1941) の名が挙がってはいるが、特に編曲者としての表記はない。この楽譜もまた不思議なことに 1・2・3 と大変良く似ているが、どちらかと言えば、3 と最も良く似ており、【表 3】の箇所は 3 と全く同じになっている。しかし、【表 4】に示すように、1・2・3 の楽譜とはまた違う音が若干あると共に、記号等はどの楽譜とも異なっている。

【表 4】整理番号 1・2・3 と整理番号 4 の音の相違箇所

相違の箇所	整理番号 1・2・3	整理番号 4
第 62 小節 1 拍目左手	G	Gd の和音
第 113 小節左手		
第 329 ～第 339 小節 1 拍目までの右手	単旋律	単旋律の 1 オクターブ下に同じ旋律が付され、旋律がオクターブで進行
第 343 ～ 344 小節右手		

以上、4種の楽譜を比較してきた。この4種類には作曲者本人の他、多くて二人の編曲者が関わっているはずだが、実際には編曲手法が大変に似通っており、いずれもマルシュナーのピアノ・スコアをほぼ踏襲している。そのため、ヴォルフの見た版を特定することは不可能だが、いずれにせよ、その内容に本質的な差は見られない。

5. 《ワルツ＝フィナーレ》の編曲手法 — ヴァーグナーのオペラに基づくパラフレーズとの相違点

前項で述べたように、ヴォルフの《ワルツ＝フィナーレ》は、第 1 幕の〈フィナーレ〉を第 1 小節から第 120 小節まで、ほぼそのまま進行させた後、第 333 小節の後奏に繋いで終了となっており、このカット以外、原曲とほとんど相違はない。このなかで唯一、〈フィナーレ〉の第 352・354 小節が全休符となっているのに対し、ヴォルフはこの全休符の 2 小節を詰めて、休符をなくしている部分が大きな変更箇所と言える程度である。さらに前項で検討した整理番号 1 ～

4のヴォーカル・スコアと《ワルツ＝フィナーレ》の音を比較すると、ヴォーカル・スコア間では【表3】と【表4】の相違点しかなかったが、《ワルツ＝フィナーレ》では、ヴォルフが臨時記号を付け忘れた（と推測される）ために起きた大きな違い以外にも、細かい部分での音の相違は非常に多い。数が多いので一部を例として【表5】に挙げる。

【表5】ヴォーカル・スコアと《ワルツ＝フィナーレ》の相違箇所（一部のみ抜粋）

相違の箇所	ヴォーカル・スコア	ワルツ＝フィナーレ
第7小節 1拍目右手	装飾音 b^2	装飾音 a^2 と b^2
第14～15 小節		
第27～28 小節		

しかし【表5】に示した音の違いを見ても、これが編曲手法上、本質的な相違とは捉えられない。そして、このような曲の作りは、同時期に作曲された、ヴァーグナーのオペラに基づく2曲のパラフレーズとは全く異なっている。これらのパラフレーズにおいては、ヴォルフがそれぞれのオペラに拠りながらも、自由な編曲や連結を行っているが、基本的に《ワルツ＝フィナーレ》では、カットはしているものの、曲の進行に変化を加えていない。またこれは、ヴァーグナー編曲作品の2曲にはパラフレーズと銘打っているように、題名の違いにも表れている。2曲のパラフレーズの詳細な作曲背景は定かではなく具体的な比較はできないが、《ワルツ＝フィナーレ》に関する限り、ヴォーカル・スコアの記憶を頼りに、気軽な楽しい演奏を書き付けた作品以上のものとは考えられない。

さて、オペラの〈フィナーレ〉は、祭りに出掛けたアンナとハンスの近くに楽隊がやってくる場面で、農民の「わーい！ 楽隊が来たぞ！ Heisa! da sind die Spielleute!」という台詞と共に、遠くからダンス音楽が聞こえてくるという設定で演奏が始まる。第46小節までは、踊りに行きたいと願うアンナと禁ずるハンスとの台詞でのやりとりが中心だが、ヴォルフの《ワルツ＝フィナーレ》には、これらの台詞は一切書き込まれていない。〈フィナーレ〉の第48小節3拍目からは、この願いをアンナが歌い始めるが、興味深いことに、ヴォルフは《ワルツ＝フィナーレ》の自筆譜に、ここからの歌詞を書き入れており、これも、曲中に直接歌詞を書き入れることのなかつ

たヴァーグナーのパラフレーズ作曲法⁶とは大きく異なっている。歌詞は《ワルツ＝フィナーレ》の第48小節3拍目から第79小節2拍目まで、【表6】の通りに書かれており、これは、オペラの〈フィナーレ〉の歌詞と完全に対応している。

【表6】《ワルツ＝フィナーレ》に記載されている歌詞

原詩	対訳
Wie hüpf't mir vor Freuden das Herz in der Brust, das Tanzen, das Tanzen, das ist meine Lust! Zu schweben und drehen im wogenden Kranz; o lasst Euch er bitten, gewähret mir den Tanz!	心は喜びで躍り上がるよう、 ダンス、ダンス、それが私の楽しみなの！ 高まる輪のなかで漂い、回る； ああ、それが私にダンスを許してと、あなた にお願いさせるの！

この後、オペラの〈フィナーレ〉では、アンナの最後の「Tanz!」に被るように、ハンスの「だめだ！ 私はおまえにみだらで野蛮な楽しみを許すことはできない！ Nein! Ich kann sie nicht gewähren die verführend wilde Lust!」という歌が続く、その後は、ゲルトルーデとコンラートの、ハンスに対する説得の二重唱が続くが、この部分の歌詞が書かれることはなかった。

6. まとめ

本稿では、現在まで唯一未出版の、ヴォルフのピアノ作品《ワルツ＝フィナーレ》を対象に、その成立状況と編曲手法を論じてきた。

ヴァーグナーのオペラに基づく2曲のパラフレーズが、ヴァーグナーの音楽を素材としながらも、ヴォルフ自身の手法で編曲や様々な連結が繰り返されるなかで、独自の作品として仕上がっているのに対し、《ワルツ＝フィナーレ》は、ヴォルフ自身が「集結された記憶から」としているように、あくまで《ハンス・ハイリンク》からの一場面、しかもヴォーカル・スコアを思い出し、再現して書き付けたという性格が強い。この曲は元々が祭りでの楽隊の音楽と言う設定であるため、作曲者としてのヴォルフが、旋律はそのままに編曲に腕を振るえるほど、和声などの音楽的要素に豊かな素材が揃っているとは言い難い。またヴォルフも編曲に際し、独自性を発揮するといった意図はなかったと考えられる。そのため、曲の進行も部分的なカットはしているもののほぼ変更はなく、また、歌詞が付されている部分も、オペラ通りの歌詞がそのまま付けられているのみである。

このように《ワルツ＝フィナーレ》は、ヴォルフの音楽的な独自性が薄い作品ではあるが、題

6 但し、ヴァーグナーのオペラによるパラフレーズの自筆譜は、出版時には存在したはずだが、現在では2曲とも行方不明のため、自筆譜の確認はできない (Jestremski 2011:638-639, 682)

材の選択については一考する価値がある。ヴォルフにとってのオペラ全体の魅力については、「3.《ワルツ＝フィナーレ》の成立」の項でヴェルナーを引用したように、マイアーリンクの情景との一致が考えられるが、なぜ特にこの場面を取り上げたのだろうか。ハンスは、金持ちで教養ある理想的な結婚相手としてアンナの前に現れ、彼女を熱愛しているにも関わらず、愛されることはない。男性の恋愛と失恋を主題、または基礎とした作品は、ヴォルフの作曲の得意分野であったリートにおいても、ヴォルフ以前、またはヴォルフと同時代の作曲者の作品として、フランツ・シューベルト Franz Schubert (1797-1827) の《美しい水車小屋の娘 *Die schöne Müllerin*》D.795 (1823 年作曲)、ロベルト・シューマン Robert Schumann (1810-1856) の《詩人の恋 *Dichterliebe*》op.48 (1840 年作曲)、またグスタフ・マーラー Gustav Mahler (1860-1911) の《さすらう若者の歌 *Lieder eines fahrenden Gesellen*》(1883-1885 年作曲) など多数ある。そしてヴォルフも連作歌曲集の作曲こそ行っていないものの、特に男性の失恋を扱った様々な詩に作曲をした。そしてこのような場合、特にヴォルフに限って言えば、失恋の原因が、男性の「恋愛に対する不器用さ」にある詩を好んで取り上げる傾向があった。例えば《スペイン歌曲集 *Spanisches Liederbuch*》の《世俗的な歌曲集 *Weltliche Lieder*》より第6曲〈恋を取り逃がした男 *Wer sein holdes Lieb verloren*〉(1889 年作曲) では、好きな女性から告白されたにも関わらず、うまく答えることができずに彼女を傷つけてしまう男性が描かれる。また《イタリア歌曲集 *Italienisches Liederbuch*》の第II集 II. Band (1896 年作曲) より第18曲〈もうこれ以上歌えない *Nicht länger kann ich singen*〉と第19曲〈ちょっと静かにして *Schweig' einmal still*〉はヴォルフの歌曲集では一組として作曲されているが⁷、愛する彼女のために強風のなか懸命にセレナードを奏でる男性は、音楽性の無い演奏や気の利かなさゆえに彼女を怒らせ、「ちょっと静かにして!」と言われてしまうのである。筆者には、ヴォルフが後に作曲した、これらのリートに登場する男性とハンスが、「恋愛に対する不器用さ」という点で重なって見える。ハンスはアンナを強く愛していたにも関わらず、王として小人たちを支配することが日常的な環境で生活していたことから、アンナに対しても命令を下し、自分の所有物とするような接し方になってしまう。その結果アンナは彼を嫌う一方で、彼女を優しく気遣い、守ってくれる人間の男性と結婚してしまうのである。

ヴォルフが〈ワルツ＝フィナーレ〉として編曲した《ハンス・ハイリンク》の第1幕最終曲は、ダンス音楽として、確かに覚えやすく再現しやすい曲であったかもしれないが、このオペラのなかには、他にも魅力的なアリアなどがいくつも含まれている。そのため、この曲を選択した背景には、このようにヴォルフの題材に対する好みもあったのではないかと筆者は考えるのである。

付記：本稿は、平成27年度鹿児島大学若手教員海外研修支援事業による研究成果の一部である。

7 原詩集では、〈もうこれ以上歌えない〉が79番 (Heyse 1860: 79)、〈ちょっと静かにして〉が35番 (ibid.: 17) に収録されており、2つの詩には全く関連性は無いが、ヴォルフのリートでは、2曲に同じモチーフが導入され、双方の関連性が音楽的に表現されている。

引用・参考文献

- EPPSTEIN, Hans. 1984. "Zum Schaffenprozess bei Hugo Wolf." *Die Musikforschung*, 37(1): 4-20.
- HEYSE, Paul (Hrsg., Übersetzer). 1860. *Italienisches Liederbuch*. Berlin: Wilhelm Hertz.
- 広瀬大介. 2010. 「マルシュナー《ハンス・ハイリンク》曲目解説」DVD ハインリヒ・マルシュナー 歌劇《ハンス・ハイリンク》解説書, 5-12. DENON COBO-4931～2.
- Internationale Hugo Wolf-Gesellschaft in Wien. 1974. *Klavierkompositionen. Hugo Wolf Gesamtausgabe*. XVIII-1. Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag.
- . 1997. *Klavierkompositionen. Fragmente. Hugo Wolf Gesamtausgabe*. XVIII-2. Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag.
- . 1992. *Fragmente und Skizzen. Hugo Wolf Gesamtausgabe*. XIX-1. Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag.
- JESTREMSKI, Margret. 2011. *Hugo Wolf. Werkverzeichnis*. Kassel: Bärenreiter.
- MARSCHNER, Heinrich. 1909. *Hans Heiling: Romantische Oper in drei Acten nebst Vorspiel von Eduard Devrient*. Leipzig: Friedrich Hofmeister. (【表2】の整理番号1)
- . o.J. *Hans Heiling: Romantische Oper in 3 Akten nebst 1 Vorspiel*. Leipzig: Friedrich Hofmeister. (【表2】の整理番号2)
- . o.J. *Hans Heiling: Romant. Oper von Eduard Devrient*. Leipzig: Friedrich Hofmeister. (【表2】の整理番号3)
- . o.J. *Hans Heiling: Romantische Oper in 3 Aufzügen mit einem Vorspiele*. Wien: Universal-Edition. (【表2】の整理番号4)
- ROZMAN, Jure. 2007. *The formation of style: Selected early works of Hugo Wolf*. DMA Diss. Louisiana State University.
- SCHRAFFL, Ingrid. 2015. "Marschners Hans Heiling." *Hans Heiling*, 32-37. Theater an der Wien (Hrsg.). Wien: Theater an der Wien. (2015年9月上演のプログラム解説書)
- 梅林, 郁子. 2011. 「フーゴ・ヴォルフのピアノ曲とリートにおけるモティーフの反復」『日本ピアノ教育連盟紀要』27, 39-51.
- WALKER, Frank. 1992. *Hugo Wolf. A Biography* (3rd ed.) (1st ed. 1951, New York: Knopf.), Princeton, NJ: Princeton University Press.
- WEISSTEIN, Ulrich 1992. "Heinrich Marschner's 'Romantische Oper' Hans Heiling: A bridge between Weber and Wagner." *Music and German literature: Their relationship since the Middle Ages*, ed. by James M. McGlathery, 154-179. Columbia, SC: Camden House.
- WERNER, Heinrich (Hrsg.). 1913. *Hugo Wolf in Maierling. Eine Idylle*. Leipzig: Breitkopf und Härtel.

引用・参考データベース

- McGLATHERY, James M. "Heinrich Marschner's 'Romantische Oper' Hans Heiling: A bridge between Weber and Wagner." (Weisstein 1992の抄録) *RILM*, 26, Entry Number 12819. (2016年8月13日確認)
- PALMER, A. Dean. "Marschner, Heinrich August." *Grove Music Online*. 2007-2016. Oxford: Oxford University Press. (2016年8月アップデート分を確認)